

「福井市総合計画審議会」 第5回 第4部会

■開催日時：平成22年9月27日（月）18：00～20：00

■開催場所：AOSSA 6階 602研修室

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

事務局（吉村室長）

A3版のこの資料をご覧いただきたい。1カ所だけちょっと赤字で修正をさせていただいております。「市民が福井の魅力を知る」という、これがここの項目の目標なんですけれども、全体として福井市が何をするかというようなことで見出しを作っておりますので、「市民が福井の魅力を知る」というのは目的ではありますが、行政としてはそのために「魅力に触れる機会を増やす」というふうなものが中身になっておりますので、タイトルをそういった形に修正させていただいた形になっております。

それから、本日は都市像のところの、ご議論をいただくというような中身になっております。そこで、その前段として、ちょっと資料の追加をしておりますのでご覧いただきたいと思います。資料No.18で、市民意識調査の報告書、ちょっと厚いやつでございます、を付けてございます。前は速報版で、主なところだけを入れましたけれども、今回は年代ですとか、あるいは性別ですとか、そういった分析もしながら、ちょっと厚い資料になっておりますけど、まとめております。

その傾向的なものだけ、ちょっと簡単に書いたものが、本日の次第を1枚おめくりいただいたところで、会議次第の1枚めくっていただいたところです。市民意識調査分析概要ということでございます。5年前に、現在の5次総合計画の、基本計画の改定をしておりますけれども、その時の意識調査とほぼ同じような中身の調査でございます。前回調査として、「福井のまちへの思いについて」は大きな変化はございません。住みやすいと感じている人、それから住み続けたいと思っている人が多数を占めているという状況でございます。それから2点目。「今後のまちづくりについて」でございますけれども、これは「安心して暮らせる安全都市」が他の項目よりも圧倒的に多い。これも前回と変わらないような状況でございます。それから生活環境についても、ほぼ同じような状況で、今回変化したところはないというような状況です。

それから4点目の「市役所の仕事について」、これは若干、変わった傾向がみられます。高齢者福祉ですとか介護福祉、こういった高齢者に関する仕事に対して力を入れてほしいという意見が、前回よりも増加している。その一方で、防災体制ですとか河川整備、災害に関する仕事については、5年前が16年の豪雨の後だったということがありますし、その後、貯留管を入れたり、浸水対策の事業も相当やっております。そういったこともあるのだらうと思いますけれども、災害対策に力を入れてほしいという意見は、前回より減少傾向にあるということでございます。それから福井市が行っている施策の満足度ですとか

重要度、これに関しましては、これもちょっと世相を反映しているような結果です。魅力とか、「活力と魅力あふれる産業をつくる」というところが、施策の重要度については毎年調査をしているわけなんですけれども、昨年度まではだいたい中ぐらいのところだったんですけれども、満足度が大幅に減少して、不満度と重要度が急激に増加しているというような状況でございます。これが意識調査のざっとした概要でございます。

それから、もう一つ、資料19と書いてある資料をご覧いただきたいと思います。資料No.19、今度は横、A4の横になります。6次総合計画に関するパブリックコメント募集の結果でございます。主には将来都市像についてのご意見を聞いているわけなんですけれども、表紙のところで、パブリックコメントでの将来都市像の提案というのが、これは1件だけございました。ここに書いてございますように、『笑顔が輝き 活気溢れる 生活安心No.1都市 ふくい』というものを提案されている方がお一人ございまして、それを書いてございます。それから1枚、ちょっとめくっていただきたいと思います。将来都市像についての意見ですけれども、これは次のページまで合わせて10件ほど出てきております。主なものをちょっと拾いますと、1番のところでは生活安心ということを訴えたいのであれば、それが明確に分かるようなデザインに工夫すべきではないか。それから2番目のところですが、全体的に今回は母性的なイメージになっている。生活安心とか、どちらかというと守りのつというイメージだと思いますけれども、もう少し活動的なイメージを出すほうが良いのではないかというようなのが2点目のご意見です。それから3番目のところですが、先ほどの施策のところでの、市民意識調査のこともあつての思いだと思いますけれども、産業、雇用、観光、農林水産業、こういったところを最優先して都市像を作ってはどうかというようなご意見。さらには、単なる生活安心ではなく、日本でNo.1を目指すぐらいの意気込みが必要ではないかというようなご意見でございます。それから1枚おめくりいただきまして、8番目のところです。ここでは、福井県の人口の3分の1を占める県都福井市である、そういったことから県を導くような、リーダーシップを示すようなことも大事ではないか。こういうご意見が出ております。主なところはだいたい、今のようなところだと思いますけれども、都市像についてはそういうご意見が出ているところでございます。

それから、その後ろには自由意見として施策とか、政策、そういったところでいろいろご意見をいただいております。ここでも例えば4番のところでは、ここは県都というような言葉ではなくて、何か新しい福井市の代名詞もそろそろ考えるべきではないか、こういったご意見などもございます。以上、簡単ですけど、ちょっとパブリックコメントの結果といいますか、結果の中から主な項目をちょっと拾って、ご紹介をさせていただきました。

それから、会議次第の2ページをちょっとご覧いただきたいと思います。これまでご議論いただきまして、基本目標、政策の部分はある程度こういった形で固まってまいりました。将来都市像はこの上に、こう、キャッチフレーズ的に、挙がってくるというものでございます。今日の4つの基本目標を統括するような形。あるいは場合によっては、どこかに力点をおいたような形もあるかもしれませんが、構造的にはだいたいそういったような形になろうかと思っております。よその市などをみますと、全く違うといえますか、

なかなか繋がらないってような場合もあるのかもしれませんが、そういう場合でも、この全体の組み立ての中では、ある程度やっぱりマッチングも必要ではないかなというふうに思っております。そういったことも、ここに入る言葉だというようなことも意識しながら都市像の部分について、またご議論をいただきたいと思います。

それからもう一つ、今日、本日の資料として、私の考える福井の将来都市像ということで、第1から第4部会ということで、骨子についてのペーパーがございます。議員さん、よろしいでしょうか。

吉田委員

どこ。

事務局（吉村室長）

こういった。

吉田委員

もう一つのこの。

事務局（吉村室長）

これは、前回の、それぞれの1部会から4部会でお願いをしまして、それぞれ、お一人おひとり、将来都市像とそれについてのコメントを提出していただいたものです。第4部会は1枚おめくりいただきますと、1点目。「ともに手をたずさえ、笑顔が輝き、健やかに暮らせる生活安心都市 ふくい」。それからもう一人、「心豊かに自然と共生し、次世代に引き継ぐサステイナブルシティ ふくい」という、この2つをご提案いただいております。それから、その下の方には第1部会から第3部会まで、ほかの部会でそれぞれ委員から提出されたものを、参考までに資料としてお付けしております。これまでに提出していただいたのは、第1部会はこの2点だけですが、本日ご出席のお二人の方からとか、こういったものを、ですから、それからほかの部会のもの、あるいは前回、政策調整室の職員がある程度、1からしたようなものもございます。そういったものも、ちょっといろいろ考えながら、どういったものがいいかということをご議論いただければと思っておりますので、後はよろしくをお願いをしたいと思います。以上です。

吉田委員

副部会長、取りまとめてください。

野坂副部会長

ちょっと前回、私も海外出張と重なって欠席していますので。

吉田委員

ああ、本当。

野坂副部会長

どういうご議論があったのか、ちょっと、この部会であったことも、どうしてもわからんし。

事務局（吉村室長）

実はお二人とも、前は欠席だったんですね。

野坂副部長

そこを振られても、ちょっと、非常に困りますけど。

事務局（吉村室長）

前は、前はこれまでの議論の取りまとめみたいな形でおさらいといいますか、調整会議からのフィードバックとか、そういった話が主で、将来都市像についてはどちらかというと、前回宿題を出して、次までにまたお考えをいただいて、ご議論いただくということで、資料として送らせていただいていると思いますけども、政策調整室の職員が一人、1つないし2つ、ない頭を絞ってちょっと考えたようなものを参考資料として送らせていただきながら、委員の皆さんにはそれぞれ、いろいろ考えてきていただいて、本日はそういったものを発表していただきながら、ご議論いただこうかなということで、前はちょっとお願いをしたようなところでございます。

吉田委員

その前に、ささいなことやけど、これ、専門部会最終でしょう。まとめたものだ。前回の、さっき赤の、「に触れる機会を増やす」で赤にしたでしょう。その下、2段目やけど、これ消したの、「観光客への」の「の」を消したのか。

事務局（吉村室長）

はい。

吉田委員

そうするとここに、下に、これ「の」入ってるのだけれど、最終のやつ。

事務局（村田主任）

最終のやつ。

吉田委員

さっきこれ、赤いやつがあったでしょう。これは前回、その話の中で、委員会の中で、こうした方がいいということで消したところと、赤と、追加したところと、なんやろ。この送ってきた資料の15番は、これが最終ですよ、ということですよ。

事務局（吉村室長）

そこからこれに変わる。

吉田委員

そこからこれに変わるのか。

事務局（吉村室長）

はい。

吉田委員

ああ、逆。そう。

事務局（村田主任）

そうです。

吉田委員

そうか、そうか。そうすると、「への」って消してあるところはなんや。これ、2つ、ライン引いたところの2本線。

事務局（村田主任）

これはもうまったく削除ということで、この点も多いので落として、「観光客への心のこもったおもてなし」というよりも。

吉田委員

そしたらこれにしたのではないんか。だって、これ、みんな削除になっとる。

事務局（村田主任）

そうですね。最終で見え消しを、直したやつを送ったのですね。

吉田委員

はい、はい。

事務局（村田主任）

そうですね。

吉田委員

だからこれが最終でしょう、っていう。

事務局（村田主任）

この「への」は

吉田委員

赤が最終ではないだろう。

事務局（村田主任）

だからこの見え消しと同じような、見え消しをなくした資料を送ったんですが、すいません、議員さん、これ、「の」は落とします。

吉田委員

いらないのでしょう。

事務局（村田主任）

はい、失礼しました。

吉田委員

こっち、直しとかないかん。

事務局（村田主任）

はい、失礼しました。

吉田委員

ごめんなさい、あと本題に入ってください。

野坂副部長

将来都市像、第4部会で話し合う必要がある。漠然としすぎていて。この前は、今日のために送っていただいた将来都市像案という資料17にいろいろなものが出ていますが、これと、この私の考える福井の将来都市像、第1部会、第4部会っていうのがありますが、これ、もともとの17というのは、これ、資料17っていうのは、どなたが。

事務局（吉村室長）

もともとの資料17はたたき台といいますか、なかなかこういった、考えていただくのに、何か参考になるものがあった方がいいかなと思ひまして、私どもの職員がいろいろ、ちょっと考えたものをたたき台的に、前回の資料としてお出しさせていただいて、参考になるかどうか分からないけど、こういったような考え方もありますよということでお示しをして、あまり参考にしなくてもいいとは思ったんですけど、何かちょっとたたくものがないとあれかなと思ひまして、それはちょっと、そういう趣旨で。

吉田委員

そうですか。

事務局（吉村室長）

こういう会議の場でもうたものではなくて、職員の方でちょっと作ったものを参考に出させていただいたような資料です。

吉田委員

これと、このパブリックコメントにかけた中身と、この将来都市像と、これちょっと、意味が分からない。パブリックコメントにかけるなら、最初から出てきたやつを、どうでしょうかというふうな形でかけるのであればいいのだけれど、ここの「笑顔が輝き、活気あふれる生活」うんぬんって、こう書いてあるの。

事務局（吉村室長）

はい。

吉田委員

これをたたき台に、パブリックコメント。

事務局（吉村室長）

いや、違います。

吉田委員

ではないの。

事務局（吉村室長）

これは、一番おもとの素案です。諮問した素案をもとにパブリックコメントをかけて、ご意見を出していただいたものです。これは、その意見をいただいた方の案です。もともとのやつは。

吉田委員

これではないのか、「ともに手をたずさえ、笑顔が輝き続ける」。

事務局（吉村室長）

それです。

吉田委員

これやろ。

事務局（吉村室長）

それです。

吉田委員

これに基づいて、この方がこれでどうでしょうかということになったと。

事務局（吉村室長）

そういう意見を出してこられたということです。

野坂副部長

読ませていただいて、資料17を見ていて、皆さん考えることがよく似てるなというように思って、市民の方、これ読むと、だいたいこういうこと、一緒のこと考えてらっしゃるんだなと思いながら読ませていただいたんですけど。

事務局（吉村室長）

これ、市民の方じゃないので。

野坂副部長

市役所の方とは、職員の方。

事務局（吉村室長）

市役所の、はい、すいません。

野坂副部長

そうですか。

事務局（吉村室長）

パブリックコメントでは提案あったのは、この1件だけということです。

野坂副部長

どういう具合にしたらいいのですか、これ。

吉田委員

私はこのまんま、素案のやつでいいのではないかなと。どうしてもっていうなら、この中の、誰が考えたのか知らないが、17番の中の。

事務局（吉村室長）

17番は無視してもらえばいいです。

吉田委員

無視すればいいのか。

事務局（吉村室長）

どちらかというと、今日出した一部、こちらですね。この1部会の方で、2つ出ていま

すので。

事務局（村田主任）

4部会。

事務局（吉村室長）

すいません、4部会で2つ出ていますので。野坂副部長さんが出されているのじゃないかと思うんで。

野坂副部長

自分のやつはコメントしづらい。

事務局（村田主任）

調整会議に、この4部会として、案として出していただくので、この今の2つをそのまま出してもよろしいですし、どっちか1つにしてもいいですし、また新しい、今ここで、お2人が新しいのを出していただいてもいいですし、どちらでもいいと思うんですけども。

事務局（吉村室長）

吉田委員はもとのやつが。

吉田委員

うん、僕はこれがいいのではないかなど。あんまりだらだらと、そんな都市像を述べたかって、コンパクトにそれで、凝縮してればいいわけやろ。この中身は、この理由はこんななんです。この理由の中でちょっと、ちょっとこれはどうかと、中身的には、理由の中身は思わなくてもないが、タイトルの市長らしいっていうか、今の東村さんが続くとするならば、らしい思いかな。

事務局（吉村室長）

続くかは、まだちょっと分かりませんが。

吉田委員

いやいや、分かるよ。これちょっと、来年いっぱいあるからの。

野坂副部長

どういう具合に、今、吉田委員さんとしては、もともとの、資料17の11番がいいんでないかというご提案ですか。

吉田委員

17の11、じゃないです。

事務局（吉村室長）

17じゃなくて、もともとの素案の

吉田委員

もともとの、素案。

野坂副部長

素案。

吉田委員

「ともに手をたずさえ、笑顔が輝き続ける生活安心都市 ふくい」。

野坂副部長

ちょっとあんまり芸がなさすぎる。

吉田委員

僕はこの中身の理由を見て、そういう中身でいいのでないかなと。

野坂副部長

特に、事務局で考えてもらえばいいのでは。

吉田委員

これはもう、十人十色だけに、なかなかまとめづらいと思う。意見出たら。でもやっばりのぞむべき第六次やで、ということも分からんでもないし。

野坂副部長

いろいろ考え、行政当局としても、皆さんの考えになって出しているから、異論はないというか。いろいろな角度で考えた上での、今。どなたが作られたか、吉村室長さんがお作りになったのか知りませんが。

事務局（吉村室長）

いや、私が来た時にはもうできていました。

野坂副部長

そうですか。いずれにしても調整会議で、部会の、調整会議で第1部会案、第2部会案、第3部会案、第4部会案として調整するという形になるので、第4部会案として今日は、案としてまとめたいということだろうと思うんです。

事務局（吉村室長）

そうです。だいたい、お願いしているのは、2つ、3つ、出していただいて、それを調整会議の中でまた揉んでいただくというふうなことで考えてはおりますので。1つにしぼる。

野坂副部長

2つ出ているので、絞りようがない。

吉田委員

副部長はどれを出したのかしらんけども。俺が審査する。どれなのか。何番や。

野坂副部長

困ったな。

事務局（吉村室長）

副部長さんから、こういう思いでこういうものを出したというようなことを、ご意見を言っていて、そういったところから議論を。

吉田委員

2つ、3つっていうなら、それも1つの。独断と偏見で決める。

野坂副部長

だいたい私が書いたの、分かるでしょう。

吉田委員

やたらカタカナが多いのか。

野坂副部長

やたらカタカナが多い。第1部会、第2部会、第3部会の皆さんがお書きになられたの、一番第4部会が少ないね。こうやって見ると。

吉田委員

4枚ですか。4枚かな、この。これは違う。第3。だから第3部会の。

野坂副部長

第4部会ですって。

吉田委員

第4部会って書いてあるか。全部上の、かつこで書いてある。なるほど。だから2番やる。カタカナ。

野坂副部長

ご想像におまかせします。非常に、アイデアとしては、何か特色を出した方がいいのか、それともある程度議論された言葉を全部網羅した方がいいのかということになると、どうなんですか。

事務局（吉村室長）

どちらもありだと思う。

野坂副部長

特色を出そうと思うと切り捨てなあかん。変に偏った形になると思うし、それがないと逆に、パブリックコメントなんかでもいろいろ出てくるのは印象がないとか、いろんな話も出ていましたけど、それもあるし。それだけみると片手落ちだという話になるし。

事務局（野坂副課長）

ある程度、キャッチフレーズ的なところがあつたと思うんですね。となるとインパクトという面もやっぱり外せないかなという。

野坂副部長

比較的、第1部会、第2部会、インパクトではないけど、そういう意識をされて、どちらかという特色を出そうというような形かな、というようには感じる案もあります。

このまま出しますか。第4部会案として。

吉田委員

いいですよ。これはあれでしょう。ほかのところ、2つも4つもちゅうとこあるけど、プラスももとのやつっていうことも含めてでしょう。

事務局（吉村室長）

もともとのやつですか。もともとのやつも部会の案として出さないとテーブルに上がらないような形。

吉田委員

そうか。

事務局（吉村室長）

はい。

吉田委員

そうするとこれはそれぞれの部会で、こちらはこれやと。そう。そんなら1つ、独断と偏見で1つ、追加して3番目に入れていく、ちゅうことで3つ。

事務局（吉村室長）

これにもともとの、諮問案のやつを1つ追加させてもらって。

野坂副部長

でも具体的に、ここでどうしようこうしようというのは難しい話だなという感じはしますけどもね。パブリックコメントの中での意見として、こういうものをどなたが出したか、私はもうよく分かりませんが、非常にまじめな市民の方がいらっしゃるなど感心させていただきましたけど、やっぱりオンリーワンとか、なんかそういったことを、きちんと出してほしいということは出ていたと思いますので。

事務局（吉村室長）

そうですね。

野坂副部長

どうしてもちょっと具体的な施策になるとイメージが薄れてしまって、網羅的で、なってしまうので、やっぱり市民の方もすべてをやってほしいというよりも何か特色を出してやってほしいというご意見かなという感じはしましたから、そういうことが少しでも、これで出た方がいいのか、具体的な施策で出た方がいいのか、ちょっと、何とも判断つきませんが、出していただいた方がいいんじゃないかなという。将来都市像に「日本一」っていうのも表現が、表現の仕方は私も言う責任を感じる。責任が出てくる。私も簡単には、やる立場になるとちょっと言えないと思いますけど。

ちょっと、逆にご質問なんですけど、教育、運動とかああいう、中学校、小学校のテストありますよね。あれ県レベルで出ていますよね、今、現状。福井市のレベルっていうのはどうなんですか、現状。

事務局（吉村室長）

福井市だけで何番とかいう順番は出てきてないと思いますけども。

野坂副部長

だからその実態は。

事務局（吉村室長）

点数的にみると、ちょっと細かいことは聞いてないですけども、だいたい同じような傾向だというふうには聞いています。

野坂副部長

そうですか。大野市とか武生市が良くて福井市は低いというと困るんですけど、そんなことはない。

事務局（吉村室長）

そういうわけではない。

野坂副部長

それともう一つ、ちょっと聞きたかったのは、健康長寿とかいろいろ、県の方は出していますけど、福井市全体と、福井市としての平均年齢とか、そういうのはどうなんですか。それも統計資料はないんですか。

事務局（吉村室長）

それは、統計資料はありますね。

吉田委員

あります。

野坂副部長

あります。それはどんな数字なんですか。

事務局（吉村室長）

ちょっと数字、今、手元にはちょっとありませんけれども、あれもちょっと、統計のマジック的なところもありまして、例えば沖縄県が長寿日本一から落ちて、島根県かどっかが一番になったというのがありましたけども、あの裏には、例えば沖縄はある程度人口が、要するに若い人がちょっと増えてきた。島根県は人口がずっと減ってきて、高齢化が進んだ。そうすると平均年齢はぐっと上がるんですよ。

野坂副部長

平均寿命ですから。

事務局（吉村室長）

平均寿命、平均寿命の出し方も、やっぱり人口構成、やっぱりどうしても関わってくるものですから。

野坂副部長

関わるんですか。

事務局（吉村室長）

そうするとなんかそういう統計の、そういったところから、沖縄の平均寿命が下がって、そういう島根辺りがグンとトップに出たというようなことも、その裏にはあるというような解説もちょっと入っていました。そういう意味では、なかなか平均寿命だけで、本当に長生きかどうかというのは、なかなか難しいところもあるみたいですよ。10万人あたり

の、例えば90歳以上が何人とか、そういった出し方をすると、それはそれで出てくる部分はある。

野坂副部長

それは高齢化のところは、やっぱり10万人の中で90歳の割合がもちろん、高くなってしまう。

事務局（吉村室長）

そうです。確かに。

野坂副部長

逆に平均寿命としてのとらえ方の数値になると思うんですけど、健康とかそういうことになる。

事務局（吉村室長）

福井も一時は、男も女もだいぶ上の方だったのですが、県も盛んに健康長寿というふうなスローガンを出していましたが、今ちょっとキュッと。

野坂副部長

本当に僅差やでね。日本全国僅差。

事務局（吉村室長）

細かいところに固まっていますから、ちょっとのあれで。

野坂副部長

ちょっとの違いで変わってしまうわけね。

事務局（吉村室長）

順番が変わるようなところがある。

野坂副部長

ちょっとそこら辺のことが、謳っていいのかがちょっとよく理解できなかったの、福井市としての数値としてなら、出て、我々にはなかなか、マスコミには出てなくて、県レベルしかなかかなか分かっていませんでしたから。出生率はどうなのですか。

事務局（吉村室長）

それは市で出ています。

野坂副部長

市で。

事務局（吉村室長）

はい。

野坂副部長

は、どうなんですか。

事務局（吉村室長）

それも。

野坂副部長

坂井市。

事務局（吉村室長）

順番は県レベルでの順番しかちょっと分からないですけども、県よりちょっと高かった、県の平均よりちょっと高かった。

野坂副部長

そうですね。

吉田委員

ただこれ問題になるのは、同じ公民館区でも、自治会加入者、加入でない、そこによっても全然とらえ方が変わってしまう。

野坂副部長

あとはもう一つ、今、国勢調査していますが、協力的かどうかというの。福井はわりと協力的かもしれないけど、都会やと全然協力的でないケースがありますから。

事務局（吉村室長）

福井市の中でもやはり周辺部と中心部でだいぶ。特に最近、オートロックのマンションなんかが増えてきて、直接はなかなか会えないようなお宅も増えています。なかなかああいう統計はやりにくい状況になってきている。

野坂副部長

事前に調査に来ますっていう案内はまず出していますけどね。そういったことを打ち出して良いのかが、ちょっと私も、具体的な数字がなかったんで、ちょっと、気にはなったんですけど。何か特色を出すには、今県がやっている、追っかけているやつも一緒にやった方がいいかなという感じは、一部受けたんですけど。

桑原さんからは何も、その後。

事務局（吉村室長）

バスの遅れではなさそうですね、これじゃあね。

野坂副部長

国際交流会館に行っていることはないでしょうね。どうしましょう、吉田さん。これ2人で話して、どうともならんという気がしますけども。

吉田委員

あと、一応の候補さえ決めれば、こんな話やったんですちゆうことを、再度部長に連絡を取ってもらって、あと部長の判断でやってもらったらいい。

事務局（吉村室長）

分かりました。そんな形で。あとは対案作りなんか、ご迷惑をおかけして、なかなかこういう状況で申し訳なかったんですけど。

野坂副部長

市の職員さんがお作りになられたっていうか、皆さん出されたっていうことを見ても、結構同じコンセプトっていうか考え方で出されてらっしゃって、という感じはしました。

事務局（吉村室長）

市の職員っていうのは、やっぱりどうしても考え方が似ている部分がどうしても出てくると思います。

野坂副部長

変わった意見の人は採用されるはずがないですから。

事務局（吉村室長）

そういうのが欲しい部分もありますので。

野坂副部長

あるんですか。

事務局（吉村室長）

ありますので。

野坂副部長

そうですか。

事務局（吉村室長）

では、委員さんにもいろんな分野から出ていただいているのも、やっぱりそういった部分もあります。やっぱり見方が、福井市はやっぱり、角度が変わるとだいぶ変わる部分もあります。

野坂副部長

我々としてもちょっと、部会長がいらっしゃらないのに、もうこれ以上議論を進めても難しいかなと思うので、桑原部会長には部会長としての職責と責任で、第4部会案をきちんとまとめてもらってほしいという2人の意見だったということでお伝えいただいて、改めて、時間ももったいないと思いますので。

3. 閉会

事務局（吉村室長）

すいません。本当に、今日はお忙しいところをお越しいただきましてありがとうございました。部会長にまた、今日の内容なども報告しながら、最終的に部会長と話をし、また調整会議の方には提示させていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

事務局（村田主任）

野坂副部長については調整会議にもお願いしたいので、またご連絡させていただきま

すので、よろしく願いいたします。

(以 上)